

# ニッポン名城 技めぐり

城から学べる  
“Construction”

Vol.02

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末

合戦のための城から、大名の権力を象徴する近世城郭に変化

## 広島城

所在地	広島県広島市
築城年	1589(天正17)年
築城主	毛利輝元
主な改修者	福島正則
保存状態	1945年、原爆投下により天守は倒壊。戦後、天守閣は1958年に鉄筋コンクリート造で復元。二の丸・城門は1990年代に木造で復元された。

### 毛利の“意地”が築いた「五重五階」の天守

広島城は、中国地方を広く治めた毛利元就の孫・毛利輝元が、豊臣秀吉に屈服して傘下となった後の1589年から築城に着手したといわれる。豊臣の大坂城を忠実に模倣した「五重六階<sup>※</sup>」の岡山城に対して、毛利がその手法に頼らず独自に築いた広島城の天守は「五重五階」であり、当時としては正規の築城法ではなかったが、名古屋城など、後に同じ技法でつくられた城郭も多い。現存していれば最古の木造天守となるはずだったが、原子爆弾で天守は倒壊、櫓や城門のすべては焼失。現在見られる天守は鉄筋コンクリートで復元されたものである。



現在の広島城・二の丸は、当時の姿を再現すべく、戦前の資料に基づき外見・内部構造とも木造で復元されている。  
(提供：三浦正幸教授)

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

